単調な日々が多いからこそ、日記は貴重だ。
日記を書く時、この思い出す動作をしなかったら、
今日一日は　完全に　僕の記憶から消えてしまう。
時間がある時は　いつでも、書き続けたい気持ちだ。

自分の日記を他人が読むのと、自分自身が読むのでは、
その日記から頭に浮かぶ　状況、様子、姿は、
大変　違ったものである。

日記に　ただ一言、　「今日、映画に行った。」
「大変、暑かった。」、「汗をかいた。」
などと、記されていても

「ああ、あの時、大島やろと行ったんだっけ、
　帰りは腹減ったなあ。」と
いろいろ、連想により　思い出す。

ただ　その一言で、他の色々な事が再び心に浮かび、
その文から生き生きとした場面が僕には浮かぶ。
その文を書いた　僕には　浮かぶ。
しかし、他人が読んだら、
その文の表す、表現する、ただのうわべしか、
その人には　頭に浮かばない。

それは、それでいいと思う。
それだから、これは　僕にだけ価値がわかる
僕の日記なのだ。
僕の宝なのだ。